



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第三一三号）

冬至 とうじ 十二月二十二日

漆

年の瀬が近づくと、お正月用の漆の器を見かけるようになります。滑らかで、艶やかな美しさは、漆芸の大きな魅力です。

漆は語源のひとつに「うるわしい、うるおす」があるように、その美は人々を魅了してきました。また機能的にも、防湿性、防腐蚀性がある上、接着力も強いので、日本ではすでに縄文時代の土器にも漆が使われていたようです。

漆は、樹皮を傷つけて流れ出る生漆を採集します。しかし、「漆」という字は、木へんではなく、サンズイへん。「木にキズつけると水がでる」、そんな生漆を採る様子が字になっているのです。

先日、重要無形文化財「蒔絵」保持者の室瀬和美さんのお話しを聞く機会がありました。

「漆は千年持つ。人は百年、その先は物が伝えてくれます。技術なくしては物は作れません。800年前の梅蒔絵箱を復元したときには物から学びました」

室瀬さんは、「人から学ぶ、物から学ぶ、自然から学ぶ」という教えは、師匠の松田権六氏から伝授されたと話していました。松田氏に出会ったときはすでに師は70歳を超えていながら、常に写生を通して自然の生命力に学ぶべきであると強く説かれていたそうです。

また、伊勢神宮の御装束神宝の漆芸については、最高レベルのものとおっしゃっていました。これからAIの技術が進むほど、手わざが誇りになるとも。手に持った技で、新たな時代の作品を創り出す、伝統と創造について力強く話す室瀬さんの姿には、漆と同様に、気品が漂っていました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 大みそか寄席

風情あるすし久の2階にて行われる大晦日恒例の落語会「大みそか寄席」で思いっきり笑い納めをした後、初詣はいかがでしょうか。

と き／令和元年12月31日(火) 一部18:00～ 二部20:30～

ところ／すし久

料 金／前売り1,800円、当日2,200円

出 演／桂文我、桂宗助、桂三象、桂三歩、桂米平

※演目は当日のお楽しみ

○ おかげ横丁 行く年来る年

「行く年」と「来る年」に、想いを馳せながら、懐かしく、ゆったりと静かに年越しをお楽しみください。

と き／令和元年12月31日(火) 23:30～

令和二年1月1日(水) 0:30

ところ／おかげ横丁内「太鼓櫓」

出演者／桂文我、桂宗助、桂三象、桂三歩、桂米平

五十鈴塾

○ 山村御流のお正月の花

奈良門跡寺、円照寺伝承のいけばな。簡素にして清潔、高雅を旨として命あるものを慈しむ、慎ましい日本の心を活けます。花と会話を重ねるなかで、自然の中に生かされるすばらしさを堪能します。講師の山室先生は山村御流の教授を務められ、名古屋を初め岐阜三重にも教室をお持ちです。「花は野にあるように」との文智女王の教えを日本文化が失われつつある今、広く伝えるために精力的に活動をしていらっしゃいます。お話しを伺うと同時に正月のお花のご指導もお願いしております。めったにない機会ですのでぜひご参加下さい。(花包み・花切り鋏・タオルなどをお持ちください)

と き／12月23日(月) 13:30～16:00

講 師／山室 千峰 (華道山村御流教授)

参加料／一般4,100円 会員3,600円 (材料費含む)

ところ／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

わびすけ

侘助

ぎゅうひ

求肥に白餡とメレンゲを加えた生地で、粒餡を包みました。炉の季節の風情をたたえる、一輪の侘助です。

しんえん まつ

神苑の松

小豆をのせた山芋のきんとんに、白い氷餅を雪に見立て、そそり立つ神苑の松を表現しました。

とし こしまんじゅう

年越饅頭

大晦日の縁起物・年越し蕎麦。その習わしにちなみ、搗った山芋に蕎麦粉を加えた生地で、こし餡を包んだ薯蕷饅頭を作りました。